

資源リサイクルの世界は、再生資源であるスクラップの高度化が更に求められている。再生資源を使うことで、プライマリーの素材製造からのCO₂削減を図るためだ。製造メーカーとしても世界で製品を売るためにはCFPを低減することが必要になるので、そのグリーン原料となるスクラップを活用することにながる。そしてスクラップ高度化というのは、単一素材化、コンタミネーションの最小化管理を行い、必要な量を供給することがリサイクルに求められるということだ。鉄スクラップ、アルミスクラップ、プラスチックスクラップが再生材の確保、高度化が先行して進んでいるように思う。

一方、リサイクル単独でスクラップ原料の全量確保、ロジスティクス最適化、

スクラップの高度化に向けて



加工・選別技術の開発・高度化、供給先である素材メーカーとの技術的やり取り、価格設定など、サプライチェーンすべてのステークホルダーのコーディネート、交渉、技術開発を行うのは難易度が高い。

「動静脈連携」という言葉

がにわかに叫ばれるようになった。動脈側と言われる素材メーカー・部品・セツトメーカー・流通・小売と、静脈側と言われる製造工程からのスクラップ回収・リサイクル、End of

Life (EOL) を迎えた商品を回収リサイクルする、自治体環境部門とリサ

イクラーが、一体的になるように社会が再設計され始めているのだ。もはやモノづくりの起点がどこからなのか？ 再生材を回収することが再生資源の起点であれば、動脈・静脈など分けて考えている場合ではない。

このように従来のリニアエコノミーと違い、サーキュラーエコノミーは田を播いて還流するわけで、サプライチェーンはITの発達によって中抜きをされながらも、長くつながっていくようになる。

リサイクルは単独でサーキュラーサプライチェーンを構築できない。製造・流通・小売り・アカデミック・金融・官とリサイクルをつなぐコーディネーターが必要になる。

製造業の発展の歴史、コーディネーターを担うべき商社の歴史、小売の歴史を

学ぶ必要があると考えている。製造受託(EMS)への移行、垂直統合と水平分業モデルといった製造業の発展の整理、世界的トレーディングと開発輸出から出資モデルへと移行した日本の総合商社の歴史、個別商店から総合スーパーやコンビニへといった小売業の変遷など、サーキュラーエコノミー社会のプレイヤーがどのように変わっていくのかを考えていくことが重要だ。

こうなると何となく資本力の勝負なるように見える。しかしそれだけではない、サプライチェーンが延伸する中で、小回りが利くプレイヤーの役割も出てくる。アイディアとやる気で勝負できる分野も沢山ある。面白く、かつ緊迫した時代になってきたことを改めて感じるのだ。